



京都藥科大学 KPUNEWS 編集委員会



2010年 年頭に当たって - 原点に立ち返り、日々研鑽努力 -

理事長 田村 正昭

皆様明けましておめでとうございます。

本年も名実ともに薬科大学のNo.1を目指して学校 運営に取り組みます。皆様のご支援、ご協力をお願 い申し上げます。

2010年を迎えるに当たって、皆様にお願いしたいことは、現在、政治、経済、そして我々大学を取り巻く環境は混迷期にあります。このような混迷の世の中にあって、先ずやるべきことは個々人が原点に立ち返って真摯に全てを見直し、改めて、今年やらねばならない明確な目標を立てることに始まると思います。

そして、立てた目標を必ず達成するために「創意・努力・情熱」に加え、使命感を持ってこの1年を送って頂くことを熱望いたします。

大学の最大の使命は「教育」「研究」を通じて、 有為な人材を輩出し社会に貢献することにありま す。学生の皆さんから私まで、京都薬科大学に集う 「少・壮・老」全ての者の原点は、学問にあること を認識しなければならないと考えます。そして建学 の精神である「愛学躬行」を脳裏に刻み、日々研鑽努力することが、名実ともに薬科大学No.1を実現するための必須条件だと信じます。お互いに目標を明確にし、達成することで、混迷の時代を乗り切ろうではありませんか。

江戸時代の儒学者「佐藤一斎」先生は、学門の最高権威者として、幕末から明治が誕生するに際し、有為の青年たちに計り知れない思想的感化を与えたと言われております。佐藤一斎先生の書「言志四録」の教えの中に、よく知られている最も有名な言葉として、下欄に示す「三学戒」の名文句があります

この意味は、今更解説することもないですが、

CONTENTS

2010年 年頭に当たって	理事長	田村	正昭・・	·1~2
2010年の新年を迎えて	学 長	西野	武志…	·3~4
京薬祭2009を終えて・・・・・・・	• • • • • •			•••4
特集 レーマン先生のご子孫と	の出会	₹V1		·5~7
卒業生からのメッセージ・・・・	• • • • • •			••••7
異文化体験	• • • • • •			8 ~ 12
11月のオープンキャンパス開				
教育後援会からのお知らせ・・				
2009年度後期試験日程・・・・・・				
2010年度大学院入学選考結果				
2010年度一般公募制推薦入学	試験結:	果		· · · 15

戦略的大学連携支援事業・FDプログラム開発

Man 1970 1 7 1970 17 4 17 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
ブリュッセル・ストックホルム視察報告・・・16~17
スカンジナビア生理学会に参加して・・・・・・18
国際消化管学会 in Croatia·····19
受賞・掲載・・・・・・・20~22
Library News·····23
お知らせ・・・・・・23~24
京薬会だより・・・・・・・25
京都薬科大学奨学寄附金募集について・・・・・・25
京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録・・・・・・・26~28

「少年のときに学んでおけば、壮年なってから役に立ち、何事かを為すことができる。壮年のときに学んでおけば、老年になっても気力が衰えることはない。老年になっても学んでおけば、ますます見識も高くなり、社会に役立つこととなり、死んでからもその名は残る」(岬龍一郎、編訳)。別に死んでから名を残そうと思わなくても、学問の力というものは、生涯の宝となることは間違いないことを教えています。

私が、今年度の最重点項目として掲げた目標に合 致すると思い紹介しました。

新天地へのスタートに当たって

薬学教育史上初の病院・薬局での長期間にわたる 実務実習が、5月よりスタートします。

薬学教育6年制導入の最大の眼目は、医療現場での 実体験を通じて、医療薬学を身につけたより質の高 い薬剤師を育成し、医薬品のプロフェッショナルと して医療の一端を担い、社会からの信頼と期待に応 えることにあります。

私が勤務していた製薬会社では、今から20年ほど 前から、薬に携わる者は医療現場を実体験し、患者 さんの喜怒哀楽に触れることが大切である、との社 長の指示が出され、病院実体験研修が導入されまし た

老人病院のご理解・ご協力を得て、全社の管理職研修の一環として、患者さんの食事から排泄のお世話まで1週間の体験実習が行われました。私も参加致しましたが、このときの体験は、それまでの薬に対する考えを一変させるショッキングの連続でした。そして、その時の貴重な体験が現在の私にとって何物にも代え難い財産となっております。

長々と説明しましたが、実務実習に行かれる学生 諸君は、医療現場で何らかの形で患者さんとの接点 があると思います。患者さんの悩みや苦しみなどに 直接触れ、それに薬がどのように係わっているのか を学ぶことが出来る機会を与えられたことに感謝 し、実務実習に臨んで頂きたいと思います。

今回、実習の受け入れにご協力いただく病院・薬局では日常業務で大変繁忙を極めておられる中にあって、学生諸君のために貴重な時間を割いて頂くのであり、実習指導くださる諸先生に、感謝の念を忘れないように心掛けてください。

実習先によっては、本学の学生だけでなく他の薬科大学の学生と一緒に実習を受けることもあります。志を同じくする仲間として、お互いに励まし合って学徳を高め、人格を高めることに努めて頂くよう期待いたします。

学生満足調査に応えて

若手事務職員で構成された「学生満足度調査PT」が実施しました、「学生満足度調査」報告書を精読いたしました。私は、学生諸君の声を真摯に受け止めております。職員各位の協力を得て、出来るものから速やかに改善に取り組むことを、年頭に当たり学生諸君に約束致します。

授業に対する希望も多くありましたが、高等学校 までの生徒とは違って、学生は、自ら学ぶ意欲が大 切だと思います。我々も努力しますが、学生諸君も 自分の本分を忘れることなく、生活態度は勿論のこ と、学問に真剣に取り組むことを、お互いの約束事 として頂きたいと切望いたします。

是非今年1年の標語に「学問に王道なし」を掲げ、 学問というものは一つ一つの努力の積み重ね以外に 特別な方法など無いことを肝に銘じて頑張って下さ い。

施設整備に伴う協力を

2月には、「愛学館」と並んで「躬行館」(講義棟と図書館棟)が竣工します。これで、建学の精神である「愛学躬行」のシンボルが揃うことになります。

当初、愛学館と同じ7階建ての学舎を建設する予定でしたが、京都市の建築基準が厳しくなり、高さ制限や景観条例に抵触するとの指摘を受け、高さを5階建てに変更するなどの対応に追われましたが、関係者の努力により新年度から、すべての授業は本校地で行われることになります。

引き続きまして、8号館のリニューアル工事、6号館、現図書館の取り壊し工事、その跡地に憩いの場として緑地帯の整備、2階建ての駐輪場の建設に取り掛かりますので、暫くは工事の騒音などで皆様にご迷惑を掛けますが、ご理解とご協力をお願いします。

第二次中期計画の策定

現在進行中の「躬行プラン」は2011年度で終了いたしますので、新たな中期計画(2012年度~2016年度)の策定に取り掛かります。

今回は、女性や若い職員にもできるだけ多く参画 いただきたいと願っております。日常業務で、多忙 であることは承知しておりますが、本学の将来を輝 かしいものにするために、改めてご協力くださるよ うお願いいたします。

今年1年皆様と一緒になって、明るく風通しの良い職場環境づくりに取り組むことを約束し年頭の挨拶といたします。



2010年の新年を迎えて - 騎虎の勢い、水急不流月、一期一会 -学長 西野 武志

明けましておめでとうございます。2010年を迎え ての新たな夢を抱かれ、希望に満ちた新年を迎えら れたことと思います。

ところで、今年の干支は寅(虎)ですが、庚寅と いい千里を走る騎虎(きこ)で代表されるとのこと です。ところで騎虎は虎に乗ることを意味し、「騎 虎の勢い、騎虎下り難し、騎虎の勢い下ることを得 ず」などの諺が知られていますが、これは一旦虎の 背にまたがって乗った人は、途中で降りれば虎に食 われるから、降りたくても降りられず、虎が疲れて 止まるまで降りるわけににはいかないとのことで、 一旦事を始めたら虎の如く激しい勢いで最後までや り通さなければならないを意味しています。今年は いよいよ薬学6年制の第一期生が5年次生になり、病 院へ2.5ヶ月、町の調剤薬局などに2.5ヶ月の計5ヶ月 の実務実習に出かける最初の年度であり、全ての学 生さんがどの病院や薬局に行くかはすでに決定され ておりますが、一旦、行きだした病院や薬局を途中 で止めて、他の施設に行くことは、如何なる事情が あっても許されることではないので、「騎虎の勢 い」で是非頑張っていただくことを期待しておりま

しかし、5年次生が実習することになっている病院 や薬局は計400ヶ所以上になるので、実務実習期間中 に、モデルカリキュラムの実習課題ができないなど 様々な問題が出てくることが予想されるので、大学 としても組織だった体制を臨床薬学教育センター内 に設置して実習を支援する予定で準備を進めていま す。さらに、「ふるさと実習」に対しても、各地区 のOBの人達の協力を得るべく、各都道府県にある支 部会との連携を計画しています。いずれにしても 「水急にして月を流さず;水急不流月」という禅語 がありますが、これは月はいかに水の流れが激しく ても、流されることなく、水の上に月影を映してい るという意味になりますが、5年次の実務実習が実施 されている過程で、各大学が様々な対応をとらなけ ればならない事態が起こってくることが推察されま す。本学としては確固たる信念を持ち、「水急不流 月」の基本精神で実務実習を遂行して行くべき議論 を重ねています。

次に、虎にゆかりのある名前をつけている人に触れ、皆さんの今年の日常生活において参考にしていただければと思います。その一人はゴルファーのタ

イガー・ウッズですが、彼の年収はスポーツ界の最 高額でなんと年収約110億とのことです。ところが彼 の日常生活は極めて質素で、①毎朝5時に起床し、1 日に10時間以上の練習をする、②食事はなるべく外 食をさける、③ベッドメイキングや車の洗車は自分 でする、ということです。タイガー・ウッズの日常 生活を知り、イチローのことを思い出しました。彼 は色々な局面で名言、①妥協をしてきたし、自分に 負けたことも、いっぱいあります。ただ、野球に関 してはそれがないというだけ、②どんなに難しいプ レーも、当然やってのける。これがプロであり、僕 はそれに伴う努力を人に見せるつもりはありませ ん、③今自分にできること、頑張ればできそうなこ と、そういうことを積み重ねていかないと、遠くの 目標は近づいてこない、④夢をつかむというのは、 一気にはできません、小さなことを積み重ねるだけ で、いつの日か、信じられないような力を出せるよ うになっています、などを残しています。いずれに しても2人に共通するところは、目標に到達するまで 死に物狂いの努力をし、さらに目標に到達した後も それ以上の努力をしていることになります。時々、 散策している寺の今週の標語に「二度と巡り合うこ とがない、今日の一日」がありましたが、与えられ た今日一日を精一杯生きる、努力する重要性を説い た言葉で、皆さんも一日一日を大切に学生の本分は 何かを考え、時間を浪費することなく、有意義に過 ごされることを切に願っています。

二人目は物理学者の寺田寅彦で、彼も多くの名 言、①興味があるからやるというよりは、やるから 興味ができる場合がどうも多いようである、②失敗 をこわがる人は、科学者になれない、③健康な人は 病気になる心配があるが、病人には回復するという 楽しみがある、などを記述しています。この中で① と②は皆さんにとっても必要なことですが、とくに 研究者にとっては必須の要件であるように思われま す。エジソンは白熱電球を作るまで1万回の失敗をし たことが知られており、「新しいことへのチャレン ジは失敗を避けられない。一つ一つの失敗から学ぶ ことができれば、必ず成功にたどりつく:失敗は最 高のレッスンである」と述べています。また同様な 言葉「私は成功からよりも、失敗の方から、ずっと 多くを学んだ;ハンフリー・デイビー」、「人が目 標を達成できないのは、途中で挫折して止めてしま

うからだ。こうした挫折を乗り越えてゆくためには、挫折にくじけずに進み、一つ一つ失敗を学びのかてとしてそこから学び、一歩一歩、前進してゆかなければならない。成功した人で、こうした体験がなかった人は少ないだろう。成功した人は誰でも、挫折の向こう側に成功がかくされていることを学ん

でいるのだ。ただ、多くの人が、挫折の向こう側まで行かないのは、残念なことだ;アンソンニー・ロビンズ」が述べられています。どうか学生の皆さんも、バケツに溜め込んだ知識に火を点け、失敗を恐れず、積極的に行動に移されることを希望しております。

京薬祭2009を終えて

2009年度京薬祭実行委員長 野村 竜平

京薬祭実行委員会に入って3年目、私は実行委員長という京薬祭を中心となって運営する立場となり、昨年までとは違う使命感や責任感などの特別な想いがありました。京薬祭の3日間を成功させるために、1年間もの期間、様々な準備をしてきたことを思い返せば、とても長かったようで、あっという間の出来事だったように思えます。そして今私がこの原稿を考えている間も、来年度の実行委員長は来年の学園祭に向けて走り回っていることでしょう。(^^)/~~~

実行委員長になってからは、自分の日常の中心は 学園祭のことで、何かにつけて色々なことと結びつ けて考えるようになりました。後期になり新型イン フルエンザが再び流行し始めた時には、学園祭が中 止になってしまうのでは、という最悪の事態が頭を よぎり、実行委員の皆には手洗い・うがいの励行や マスクの着用を呼びかけたりしましたが、最終的に は神に祈ることしかできませんでした。結果とし て、無事開催することはできましたが、お天気の神 様には少し見放されてしまったようです。(>_<)

学園祭が近づくにつれて、毎日のように悩み、プレッシャーに押しつぶされそうになり私の心がモノクロのようになっていたのですが、京薬祭が大きな事故もなく無事終えることができた時やっと、私の毎日に彩りが加えられたような気がしました。

京薬祭の成功に向けて初期の段階から一緒に学園 祭全体のことで悩んでくれた幹部、学園祭全体を支 える仕事をやってくれた3年次生。ステージ等の企画 を担当し学園祭を盛り上げるのに働いてくれた2年次 生、1年次生。私たちのお願いを快く引き受けてくだ さいました学生課、施設課の方々。そして、京薬祭 に関わってくださいましたすべての皆さん。このど れが欠けても学園祭を成功させることはできなかっ たと思います。本当にありがとうございました。

『実行』を引退した今、苦しかったこと、失ったものなどたくさんありましたがそれ以上に『実行』を通して得られたものは数え切れません。『実行』で3年間お世話になった先輩方、無計画で身勝手でバカな実行委員長についてきてくれた実行委員の皆には感謝してもしきれない気持ちです。本当にありが

とうございました。

最後になりましたが、2009年度京薬祭の開催にあたり、ご理解、ご協力を頂きました全ての関係者ならびに家族、近隣住民の皆様に、深く感謝すると共に厚く御礼申し上げます。







特集

レーマン先生のご子孫との出会い-120余年の時空を超えてードイツ語担当 准教授 桑形 広司

学生の皆さんは、『学生便覧』の前から2頁目、或いは『2010大学案内』の終わりから2頁目を見たことがあるだろうか。そこには、「本学の歴史は、1884(明治17)年、当時の京都府御雇ドイツ人教師ルドルフ・レーマン先生(1842-1914)に教えを受けた者18名が設立した京都私立独逸学校をその礎としている」との内容が記載されている。『大学案内』には、さらに立派なお髭を付けた西洋人の写真が載っている。この人物こそ、桑形先生が2009年夏にドイツで初めてお会いになったロルフ=ヘニング・レーマン氏の曾祖父ルドルフ・レーマン先生である。この特集で桑形先生が語られるルドルフ・レーマン先生の子孫の方との出会いとレーマン家墓地の墓参などの話しを読むことで、学生の皆さんには、19世紀の後半に私たちの国の近代化のために来日し、日本女性を妻とし、日本の地に骨を埋めた人物の運命を、そして何よりも本学の基を築いたドイツ人の働きと本学の歴史を深く認識して欲しい。

本学の創立に深い関係のあるルドルフ・レーマン 先生に関する記録は以前から数多く存在するが、本 学創立80周年記念誌でも指摘されている通り、レー マン先生のご子息に関する詳細な記録はなく、そも そも子孫があるのかどうかも長らく不明のままで あった。そんな中、2004年の創立120周年の祝賀ムー ドが漂う本学に突然ドイツからレーマン先生の子孫 「発見」の報がもたらされた。当時京薬会会長だっ た八崎輝義氏からの依頼で、この子孫の方と連絡を 取るようになったのがそもそもの馴れ初めだ。

ご子孫の名前はロルフ=ヘニング・レーマン(Rolf Henning Lehmann)。お住まいはニーダーザクセン州のブレーマーハーフェン(Bremerhaven)、ハンブルク(Hamburg)の西方100キロに位置する港町である。日本でいえば青森市といったところだろうか。このレーマン氏は我らがルドルフ・レーマン先生から数えて4世代目、曾孫に当たる方である。ちなみに彼のヘニングという名前は偉大な曾祖父ルドルフ・レーマンのファーストネイムに由来するものである。またレーマン(Lehmann)という名字だが、2008年世界経済を奈落の底に陥れたアメリカの証券会社リーマン(Lehman)とほぼ同じスペルだ。アメリカの方は英語に同化して最後のnを落としたが、所の支配者から知行地をもらった農民を表す典型的なドイツの名字である。

本学創立120周年の頃よりメール交換が始まり、学生諸君に黒板にドイツ語の挨拶を書いてもらって、彼らとともに写真撮影してそれをメールで届けたり、東京のレーマン家のお墓の様子、季節ごとの薬大や京都の様子をデジタル画像にしてお届けしてお届けしておった。このような交流がきっかけで個人的なつながりが深まり、一度是非出会いたいという同氏の希望もあり今回初対面となった。ただ単に出会うだけで度あり今回初対面となった。ただ単に出会うだけで度となく訪れている東京雑司が谷にあるレーマン先は表別を表表を表の墓所の土をレーマン氏に末京のお墓の土を持参、レーマン氏に東京のお墓の土を持参、レー

マン家の墓に納めたい旨打診したところ、ぜひお願いしたいとの返事があり早速5月に明治大学で開催された日本独文学会の後、雑司が谷霊園を訪ねて土を採取。親しくしている石材屋さんに骨壷とベンさん(レーマン先生の奥様)の実家の宗派浄土真宗のお題目が書かれた集骨用の袋を用意していただき、それに集めた土を納めてドイツへと向かった。



写真1 レーマン氏と初対面

8月6日夕方にレーマン氏が住まいするブレーマー ハーフェンに到着。翌朝レーマン氏の方から宿泊先 のホテルまで出会いに来ていただいた。ここで初対 面、さっそく日本から持参した骨壷をお渡しする。 (写真1参照) レーマン氏は1950年生まれ、日本で言 う還暦前の紳士で、容貌のどこかに日本人的なとこ ろが残っているではと思ったが、その予想はみごと にはずれ、青い目をした180cmを超す大変恰幅の良 い、どこから見てもドイツ人そのものであった。 レーマン氏は銀行勤務の後、30年間看護士、そして 心理療法士として病院に勤務していた医療関係者の 一人である。長年の病院勤務で椎間板ヘルニアを患 い現在休職中の身の上だ。その日は珍しいほど雲ひ とつない快晴(これをドイツ語で "Kaiserwetter" 「皇帝の天気」という)のブレーマーハーフェンの 町を案内していただいた。このブレーマーハーフェ ンという町はハンザ都市ブレーメン(Bremen)の北約 60キロに位置する飛び地で、ヴェーザー(Weser)川河 口に位置するドイツを代表するコンテナー港の町で ある。実はこの町はルドルフ・レーマン先生が日本 に来られる時に出港された港町である。この港町か らまずアメリカに向けて出航され、その後アメリカ 経由で来日されたらしい。当時海外へ出国するドイ ツ人をはじめ、ドイツ語圏の人々はすべからくこの 町から諸外国へ向けて出発したのである。同市には ドイツ移民博物館があり、かつて先祖がこの町から 移民したことを知る世界各地に住むドイツ系移民の 子孫が訪ねて来るそうである。レーマン家の現当主 は曾祖父ゆかりの町に住まいしているのだ。

午後にレーマン氏の自宅を訪問。自宅は赤いレン ガつくりで、形も北ドイツで多く見られる変形寄棟 づくりの築後間を置かない家屋であった。室内のい たるところにレーマン家の人々の写真が飾られてい た。早速レーマン家に残されているルドルフ・レー マン先生の遺品の数々を披露していただいた。驚い たのはレーマン先生が使用していた黄金のスイス製 懐中時計で、今も作動可能なずっしりと重い見事な もので、時計の裏側には名字のイニシャル(L)が刻印 されていた。他にもレーマン先生が使われていたと 思しき日本の調度品の数々もあった。それからこの レーマン氏がまぎれもないルドルフ・レーマン先生 の子孫であることを証明する家系図と写真を拝見さ せていただいた。遺品の中にはルドルフ・レーマン 先生からドイツ在住の長男に宛てられた次男の死を 告げる手紙があった。大変美しい筆跡のレーマン先 生だが、この手紙は乱れる心を表すかのように震え る手で書かれたものらしく、不揃いな筆跡のまさに 慟哭の書とも言うべき書簡であった。

家系図を拝見して分かったことだが、ルドルフ・ レーマン先生には1女、6男のご子息があった。その うち長男は京都で生まれてすぐに他界されたよう で、Tei Shin Dojiという戒名が残るのみである。東 京で若くして亡くなられた実質次男のアドルフ (Adolf, 1890-1908) 以外は全てドイツへ渡り、ドイツ で教育を受けられたが3男のルドルフ(Rudolf, 1893-1918?) は1918年以来消息不明、4男のヴァルター (Walter, 1896-1940) は1940年父親の故郷オルデンブ ルク(01denburg)で死去、5男のフリードリッヒ (Friedrich, 1902-?) も1902年に東京で生まれたとあ るだけで詳細な記述はなく消息不明のようだ。多く の子供のうち生き残ったのは長女のトニ(Toni, 1872-?)と実質長男のカール(Karl, 1886-1957)だけ で、娘のトニはドイツで教育を受けた後、しばらく 東京に戻ったが最終的にはバイエルンの修道院へ入 りそこで亡くなったらしい。長男のカールはドイツ の海運会社北ドイツロイド社に勤務、主にアメリカ や北欧との間に電話用海底ケーブルを敷設する業務 に携わっていた。彼は海運会社に勤めていたが生ま れ故郷の日本の土を踏むことは二度となかった。長 男カールにはレーマン先生と同名のルドルフ (Rudolf, 1922-2003)という息子がいた。しかしこの

ルドルフには兄弟がなく、ルドルフこそ唯一レーマ ン先生のDNAを引き継ぐ子孫となった。孫のルドルフ は第二次世界大戦で2度も召集され、陸海両軍の軍人 として出征、傷痍軍人となった後故郷のオルデンブ ルクでラジオ・テレビ技術学校の作業所に勤務して いた。ヘニング・レーマン氏はこのルドルフの長男 で、レーマン先生の長男カールの孫という直系子孫 なのである。レーマン氏には姉のマルギット (Margit, 1949年生まれ)がいる。彼女はカナダ人と 結婚してカナダに在住、農業を営んでいる。そして レーマン氏には娘のアネリー・ザンダー(Annelie Sander ,1989年生まれ)がいるだけである。その娘さ んも母方の名字を名乗っているので、実質的にレー マンの名跡はヘニング・レーマンで終わりとなる可 能性が高い。ちなみにレーマン氏は新婚ほやほやな のである。2008年に16年来の付き合いがあるルート 夫人(Ruth, 1952年生まれ)と再婚された。



写真2 レーマン家墓所にて

翌8月8日にヘニング・レーマン氏およびルドル フ・レーマン先生の生誕の地オルデンブルクへ向か う。この町の中央墓地にあるレーマン家のお墓を訪 ねて、日本から持参した墓の土を納めた。日本から 線香を用意してきたのでそれを手向けた。ベンさん の宗派は浄土真宗なので、念仏和讃などの浄土真宗 のお経をあげるべきだったのだが、生憎当方は曹洞 宗の檀信徒なので般若心経を始め、曹洞宗のお経を 読経申し上げた。仏教式の弔い方にレーマン氏は大 変興味をもたれたようで、とても感謝していただい た。(写真2参照)この儀式の終了後、驚いた出来事 があった。東京の墓地の土の上に線香を供え、読経 を終えたその時、お墓の上に咲いていた薄いピンク 色の一輪のバラが突然お供えした土の上にポロリと 落ちた。カールの霊が花に乗り移り両親の胸に飛び 込んだような気がした。レーマン夫妻も何か霊的な ものを感じられたのか、驚きの声を上げていた。

墓参後、レーマン氏の実母を訪問。御歳83歳のご婦人だが、今も元気に舅のカールが購入した大きな家に一人住まいをされている。この後本学にレーマン先生のご子孫発見の「通報」をいただいた山口冨美さんのお宅を訪ねた。山口さんとは数年ぶりの再会である。今までお世話になったことの感謝を述べ、しばし歓談した。このオルデンブルクには今も

ルドルフ・レーマン先生の生家が残っており、山口夫妻、レーマン夫妻と一緒にペーター通りにある生家を訪ねた。(写真3参照)2度の大戦で国土が焦土と化したドイツでは古い家屋が残るというのは奇跡のような話だが、幸いなるかなレーマン先生の故郷の町は空襲を受けることがなかったためにレーマン家も当時のままの姿で残ったらしい。今はカリタスというカトリック系慈善団体の事務所となっており、中へは入れなかった。町の著名人の生家なので、本来ならば家の壁に「日本の西洋化に寄与したルドルフ・レーマンの生家」といった記念碑が設けられるはずだが、プロテスタントのレーマン先生とカトリック系の慈善団体では信仰上の違いがあって記念碑の設置はかなり難しいらしい。

レーマン氏は自分が日本人の血を引くことに大変 強い思いがあるようで、メールアドレスの中にjapan の文字を入れるほどの入れ込みようだ。特に曾祖母 のベンさんに関する情報を求めておられるが、残念 ながら当方としてもお手上げの状態だ。役所で曾祖 母の除籍謄本を取っていただければかなりのところ まで分かるはずだが、残念ながらそれが叶う可能性 は今のところ極めて低い。というのも港近くの屋上に展望台のある高層ビルに案内してもらった時の事だ。彼はエレベーターの真ん中に神妙に立っているだけで外は見ず、屋上の展望台にも決して出ようとはしなかった。エレベーター前のフロアで建物に取り付けられた手すりにつかまり、ただ待っているだけというなんとも気の毒な姿があった。レーマン先生の曾孫氏は高い所が大の苦手な極度の高所恐怖症で、飛行機にも搭乗できないのだ。この時は遠来の客人をもてなすために、勇気をふるってくれたのだった。



写真3ペーター通りに現存するレーマン先生の生家

「卒業生からのメッセージ」

医療従事者ではない薬剤師として



原田 裕子

平成20年 薬品製造学分野 卒業 京都市 環境政策局環境企画部 環境指導課 勤務

在学生の皆さんは将来薬剤師として、白衣を着て病院や調剤薬局で働く姿を夢みていますか??私もそのような薬剤師に憧れて京都薬科大学に入学し、また、公立の病院で働いてみたかったので、京都市の採用試験を受験しました。自分が今の職場に配属されるまでは、環境に関わる仕事に薬剤師が就くとは想像もしていませんでした。

大気汚染や騒音、振動などの典型七公害という言葉は皆さんも聞いたことがあると思います。この典型七公害をはじめ様々な公害から市民の皆様の生活を守るというのが、私の所属する職場の主な仕事です。

公害といっても、昔ながらの工場からの大気汚染や水質汚濁のような苦情は減ってきており、昨今「隣の人がうるさい」とか、「隣の飲食店からの臭いが気になる」などの身近な問題に関する苦情が増えてきています。

具体的にどのような仕事をしているかというと、 白衣ではなく作業着を着て、水質検査のため工場からの排水を採水したり、工場からの悪臭を測定する ために、空気を採取したり・・・。これはほんの一例で すが、およそ世間のイメージの薬剤師とは違う仕事 をしています。せっかく薬剤師の資格を持っている のに宝の持ち腐れではないか、と思われるかもしれ ませんが、意外と(?)薬学部で学んだ知識が役に立っ たりします。例えば、市内の水路で硫化水素が発生 する事件があったのですが、原因を調べるときに、 化学の知識が役に立ちました。

このように、一般的にはあまり経験できない、責任のある仕事に就けたことに、今ではやりがいを感じています。医療従事者ではありませんが、市民の皆様の良好な生活環境を図るという意味では共通していると思います。また、人生一回しかないので、いろいろな経験をさせてもらえ、むしろありがたいと思っています。

みなさんも学生生活でいろいろな経験をしておく と、社会に出てからも役に立つのではないか、と思 います。

勉強ももちろん大切ですが、クラブ活動やアルバイト、旅行など学生時代にしかできないことをぜひ経験しておいてください。社会に出たときに重要な時間管理能力やコミュニケーション能力を身につけることがきっとできると思います。

異文化体験-フライブルク大学主催「日本人学生のためのサマープログラム」を体験して-

「去る8月に開催されたフライブルク大学国際局主催の「日本人のためのサマープログラムードイツ語とドイツ文化」に本学から26名の2年次生が参加した。本学の学生が参加するようになって10年以上が経過、のべ200名以上の若者が青春のひと時をドイツの地ですごしたことになる。数多いドイツの大学の中で日本人学習者だけを対象としたドイツ語夏期講座を開講しているのはフライブルク大学だけである。京都薬科大学の参加者のための特別企画として、フライブルク大学の薬学部見学と市内の薬局を見学するプログラムが用意されているが、今回から医学部付属病院での臨床現場の見学も追加された。サポート体制も万全で、今回は思いがけない出来事があり講座の続行が心配されたが、学長、国際局のスタッフ、チューターの方々の尽力により講座は予定通り最後まで行われた。この出来事によりあらためて大学のサポート体制が磐石であることが明らかとなった。

この夏期講座に参加した2年次生の代表者に「異文化体験」というタイトルでドイツでの体験や思い出をまとめてもらった。受講料+寮費で820ユーロ(10万円強)と格安値段、フランス・スイスへの日帰りバス旅行(料金は受講料に込み)があったり、授業の後午後のプログラムなど楽しい催し物も用意されている。一度じっくりと体験談を読んでほしい。それで関心をもった諸君は6号館桑形研究室までお気軽に。

日本人学生のためのサマープログラムに 参加して 2年次生 足立 萌

今年の8月、夏休みを利用して、約1ヶ月間の短期ドイツ語研修に参加しました。私がこのプログラムに応募したのは、昨年1年間新しくドイツ語という言語を勉強したことでドイツ語とドイツという国について興味を持ち、もっとドイツ語を上達させたい、ドイツの文化に触れてみたいと思ったからです。

私が滞在した街フライブルクはドイツの南西部に 位置する大学都市で、フライブルク大学はドイツで3 番目に古い歴史のある大学でした。日本のように大 学が塀で囲まれることもなく、街の中にとけこんで いました。ドイツ語の授業は月曜日から金曜日の午 前中、毎日行われました。私のクラスの先生は Pamela Schneiderというとても素敵な女の先生でし た。Pamelaは日本語がほとんど話せなかったので、 簡単なドイツ語や英語で会話しました。授業は全て ドイツ語で行われましたが大変わかりやすく、 Pamelaのおかげでドイツ語の学習がとても楽しくな りました。習ったことがその日にすぐ使えるような ものばかりで、とても役に立ちました。午後は授業 がないのでレクリエーションに参加したり、友人と 市内を散策したりビアガーデンに行ったりもしまし た。レクリエーションでは京薬生のための薬学部と 薬局見学など大変為になるものもあり、日本との違 いを実際に目で見ることができる興味深いものでし た。また毎週土曜日には日帰り旅行が用意され、ハ イデルベルク、ストラスブールやスイスのラインの 滝などを観光しました。

一方、1ヶ月過ごしたVauban寮での生活も私にとって大変心に残るものでした。寮には思いがけず様々な国籍の学生がいたので、ルームメートをはじめ彼らと交流することが本当に楽しかったです。世間話をしたり、互いの国のことを教えあったり、UNOをし

たり、時にはドイツ語を教えてもらったりと本当に 楽しくて、時間が過ぎてしまうことも忘れてしまう ほどでした。初めは言葉が上手く通じないこともあ りましたが、そんな時でも一生懸命私の言うことを 理解してくれようとする彼らの優しさもとても嬉し く思いました。

この1ヶ月で私が学んだこと、それは何事にも失敗を恐れずに一歩を踏み出してみるということです。それがドイツ語を上達させる一歩であり、友達の輪を広げる一歩でもあるのです。その一歩を踏み出す勇気を持つということ、そして新たな発見をすることの喜びを知った1ヶ月でした。最後に、このような素晴らしい経験をさせて下さった桑形先生はじめ、ドイツで私たちをサポートして下さったチューターさん、スタッフの方々、そしてもちろん京薬の仲間に心からお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

Ich möchte gern mal wieder in Freiburg sein.

Vielen Dank!!



フライブルクのビアガーデンにて



Pamela先生の自宅にて 先生とクラスメートと

Feel Alive

2年次生 梅谷 恭司

みなさんお元気ですか?Wie geht's? これから僕が簡単に「ドイツの生活ってこんな感 じ」というのをまとめて書きますよ♪



朝は小鳥のさえずりを聞きながら、太陽の日差しを サンサンと浴びて気持ち良く起床。

「あぁ~よく寝た☆」

寮のみんなに大っきな声で「おはよ~!Guten

登校途中は野ウサギ追っかけ「こんにゃろ待てぇ \sim |

授業は美人なドイツ人の先生に♪うっとり♪ 「もぉ勉強どころじゃないよ!!!」

昼は大っきなKuchenパクッ!「うっめ~!!」 Seeでスイスイスイミング♪



Bergの神様「ヤッホー!!Guten Tag♪」 みんなで旅行♪「Germanyだ!Franceだ!!Swissだ!!! わーいわーい!!」

夜は毎日みんなでParty♪Party♪ Bierがぶがぶ、Pommesさくさく、Wurstサイコー!! 「おなか一杯もう食べれません・・・」



外に出るとお星さまが☆キーラキラ☆ 「あっ!?すっげぇー流れ星!!!?」 ディスコだ!「うっほほ~い」 寮に帰って「お休みなさ~い・・・Zzz・・・」

と毎日ホボこんな風に過ごしていく中で、いつの間

にか写真の数が1枚2枚と増していくように、友達の 数も1人2人と増えていきました。

それも年齢・性別・人種を問わず、日本人をはじめ ドイツ人、フランス人、イタリア人、ノルウェー 人、タイ人、インド人といった世界中の人たちと仲 良くなれた事が、この1ヶ月で得られた一番大きなも のだと思います。

今回のプログラムを通じて「Freiburg最高!!!」「ド イツ最高!!!」と本当に心から思えました。

僕にとってこれが2度目のドイツ訪問となりました が、この地に戻ってこれたということは、偶然では なく、必然だったんじゃないかって今でもそう思い ます。

この長いようで短い1ヶ月、プログラムに参加した僕 にとって、いや、みんなにとって本当に最高の夏に なったんじゃないかって思います。

暇な日なんて一度もなかった。

毎日遊んで遊んで遊びまくって、食って、飲んで、 寝る。

このサイクルに一度の狂いもなかった。

途中いろいろ大変なこともあったけれど、「精一杯 生きてる!」って心の底から思えた。

日本に帰国する時、みんなが必ず思うことは「もっ とドイツにいたい!みんなと離れたくない よ・・・。」って誰しもが思ってるハズだと思います。 こんな機会、もしかしたらもお二度とないかもしれ ません。

なので是非、この機会にドイツの良さ、素晴らしさ を後輩たちに肌で感じてきて欲しいと思います。



最後に、ドイツで知り合った皆さん本当に有難う御 座いました! Danke schön!!

Deutschland

2年次生 榊原 諒子

私はドイツのフライブルクに1ヶ月間行ってきまし た。フライブルクはとてもいいところでした。昔か らの建物が残されていて、道は石だたみになってい て、綺麗な街並みに感動しました。建物や車など色 使いがおしゃれだし、かわいい雑貨屋もありまし た。他にも、ビールやソーセージもとってもおいし くて、私はドイツに到着した初日からすっかりドイ ツが大好きになってしまいました。そのため、日本-9に帰る日が近づくにつれて、帰りたくない思いが強くなり、日本に着いたときはとても悲しかったぐらいです。



ミュンスターから見たフライブルクの町並み

私はたくさんある思い出の中でも、特に印象深いのは友達と2人でケルンとボンに行ったことです。寮から朝5時半の始発の路面電車に乗って、ICE(日本でいう新幹線)で片道4時間かけて行きました。2人で楽しくて途中の電車の中で、盛り上がりすぎておばさんに怒られてしまったほどです。この遠出は切符を買うことから全て自分たちでがんばりました。最後までトラブルばかりだし、ドイツ語がほとんど話せない2人では不安なことが多く、何度もくじけそうになりました。しかし、私たちが困っていると話しかけてくれる人がいて、みんな親切に教えてくれて、無事帰ってくることができました。この日は一番ドイツの人の親切さを実感しました。

このときだけでなく、いつでもドイツ人は私たち 日本人にとても親切に接してくれました。困ってい たら必ず助けてくれました。笑顔で気軽に話しかけ てくれたり、私たちがわかるようにゆっくり話して くれたり、本当に素敵な人たちでした。日本に帰っ たら、私も外国人に会ったときには絶対に親切に対 応しようと強く思いました。

また、写真のように、夜に友達と集まって、スーパーで巨大なソーセージを買ってきて食べたり、ビールを飲んだりしたことも楽しい思い出です。日本にいたら話せないことも、ドイツにいるとなぜか話せてしまいます。日本に帰ってきた今でも京薬の友達とはフライブルク会と名前をつけて、みんなで集まって、ごはんを食べながらドイツでの思い出話をしています。



みんなで乾杯

このプログラムに参加して、たくさんの出会いがありました。京薬だけでなく、参加していた他大学の友達もできました。日本に帰ってきてからも連絡を取り合っています。みんな遠いからなかなか会えないけれど、会える日が楽しみです。

大学に入って、ドイツに行く話を聞いたときからずっと、どうしても行きたかったドイツ!!本当に行ってよかったです。今すぐにでもフライブルクに戻りたいです。最高の思い出ができた夏休みでした。



朝市の様子

ドイツへの留学

2年次生 河端 未来

「またドイツに行きたい。」これが、私がこの夏 休みに参加したドイツへの短期留学後の感想です。 私にとってこのドイツ留学は非常に貴重な体験にな りました。

このドイツ留学で印象に残ったのは日本とドイツ の違いに触れたことでした。ドイツの夏は比較的涼 しく、緯度も高いので夜の8時になってもまだまだ明 るいです。滞在したフライブルクという町は、統一 感があってきれいな町でした。「ディズニーシーみ たい。街角からミッキー出てきそう。」というのが 第一印象でした。



フライブルクの町並み

日常生活では例えばスーパーで買い物するとき買 い物袋を持参するのは当たり前で、日本と違ってレ ジでは買いたいものを買い物カゴのまま出すのでは なく、ベルトコンベアのようなものの上に商品をカ ゴから出して並べて会計をします。その国ではなん でもないようなことでも、外国人にとっては初めて のことであるということはよくあります。日本のや り方で当たり前だと思っていたことが海外では全く 違ったりするということに改めて気づきました。戸 惑うことも多かったですが、毎日新しい発見があり ドキドキでした。このように日本とは全く違う環境 の土地で生活することによって、ドイツに行く前と 比べてだいぶ視野も広がりました。わからないこ と、困ったことがあったら慣れない英語やドイツ語 を総動員してドイツ人のルームメイトやお店の人と コミュニケーションをとって解決しようとしたこと

はよい経験になったし、成長したように思います。



フライブルク大学

平日はドイツ語の授業があり、休日はミュンヘンへの旅行や、ボーデン湖やフランスのストラスブールに連れて行ってもらいました。時には自分達で切符を買って遠くの町に出かけたりもしました。いろいろなイベントが盛りだくさんであっという間に短期留学は終わってしまいました。

この留学でドイツが大好きになりました。1ヶ月では足りないくらいたくさんのことを学びました。それほどに充実した1ヶ月でした。ドイツ語の勉強をこれからも続けてもっとしゃべれるようになってまたいつか必ずドイツに行きたいと思っています。ドイツに行ってみたいと思っている人はまたとないチャンスなのでぜひ行ってみてください。素晴らしい経験ができるはずです!!

ドイツ留学

2年次生 國枝 亜矢香

今回のドイツ留学は、私にとって大きな思い出に なりました。



Apothekeのある町並み

私たちが滞在したフライブルクの街は、レンガ造りの建物があったり石畳の道に水路が流れていたりととても可愛らしい街でした。どの建物もどっしりとしていて、ガイドブックなどの写真で見るよりもはるかに壮大で迫力があり、違う世界に飛び込んだようでした。街の人も好奇心旺盛で、「こんにちは」など知っている日本語で声をかけてきたり、お店の人も私のつたないドイツ語や英語をちゃんと聞いて、私が理解できない言葉などは何回も言葉をかえて説明してくれました。

フライブルクでの思い出で私にとって新鮮だった もののなかに、大聖堂を囲むようにして行われる朝 市があります。日本ではあまり目にしませんが、この朝市は平日の朝7時からお昼頃までやっています。お店もいろいろあり、花や果物だけでなく、パンや肉類や蜂蜜やチーズ、お土産物なども売っていました。7時ごろは人やお店もまばらですが、お昼には歩くのが困難なほどのたくさんの人で賑わっています。果物などは持って帰るだけでなく、大聖堂の前にある噴水で洗って食べる人も多くて驚きました。

また、朝市で売っている食べ物はとても豪快で、 日本では考えられないような大きさや量のものばか りでした。中でも、ソーセージをパンに挟んだブル ストという食べ物は、ソーセージがあまりにも長い ために二つ折りにしてはさんであったり、トッピン グのオニオンもこぼれおちる程の量が入っていたり してとても驚きました。しかもそのブルストを2個も 3個も食べる人までいて、体の大きさの理由を納得せ ざるを得ませんでした。



朝市

今回の留学は1ヶ月でしたが、いざ留学してみると 行ってみたい場所ややってみたいことがあまりにも 多くありすぎて、それらを全て実行するにはとても 短い期間でした。行くまでは言葉の違いや文化の違 いがとても不安でしたが、実際行ってみると不慣れ なことはあっても受け入れられない習慣などはな く、ドイツでの生活を十分に楽しめました。いつか また機会を作って行きたいです!



通り

日本人学生のためのサマープログラムに参加して 2年次生 久保田 晃代

私にとって、この「日本人学生のためのサマープログラム」は、本当に一生忘れられないものになりました。今回のドイツへの短期留学が私にとって、初めての海外ということもありドイツにつくまでの間不安でいっぱいでした。しかし、プログラムのチューターさんをはじめクラスの担任の先生までも

がたくさんのことの相談に乗ってくれ、快適な生活 を過ごすことができました。

ドイツ語の授業では、クラスの皆で歌を歌ったり、ゲームをしたりしながらドイツ語を覚えていきました。私のクラスの担任の先生は、日本語を話すことができ、分からないときは日本語で教えてもらうことができたので、理解が深まりました。また、街中で使えるドイツ語を多く教えてもらえるので、授業で習ったことを実際使ってみることが楽しみの一つになりました。そして言葉が伝わると本当に嬉しかったです。

レクリエーションプログラムでは、京薬の学生の ためにドイツの大学の薬学部見学と薬局見学などド イツでしか経験できないようなことがたくさん計画 されており、どれに参加しても楽しめました。

このプログラムでは、日帰り旅行としてストラスブール、ハイデルベルク、そして2泊3日の週末旅行としてミュンヘンに行くことができ、どの地方に行っても、景色がよく本当に驚きと感動でいっぱいでした。

このプログラムで一番心に残ったことは、ドイツ で出会う方が皆親切だったことです。ミュンヘンで 道に迷った時に、地元の人が案内してくれ、どんな

質問にも嫌な顔一つせず説明してくれました。ドイツ鉄道に乗り、間違った駅で降りた時は電車の運転手さんが話しかけてくれ、降りる駅ではないことを教えてくれたこともありました。ドイツの人は本当に親切な方が多い上、英語を話すことができる方が多いので、ドイツ語に英語とジェスチャーをまじえながら話すと拙いながらも楽しく会話することができました。

この「日本人学生のためにサマープログラム」に参加したことで、私自身成長できたと思います。このプログラムは、初めて海外に行く人や初めて留学する人にも安心できるものだったので、少しでも興味があるなら参加し、色々経験することを心からお勧めします。



お別れバーベキューにて

11月のオープンキャンパス開催

入試課

11月3日(祝・火)にオープンキャンパスを開催しました。

今回は、高校生および付添者等合わせて、219名 の参加者があり、無事、盛会裏に終えることができ ました。

半日のスケジュールで、愛学館のA21講義室での「学長挨拶」、「大学紹介」、「在学生の話」、「卒業生の話」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「在学生の話」では、3年次生の羽岡秀幸さんに大学生活やクラブ活動等についてお話をしていただきました。参加者からは、「わかりやすくておもしろかった」、「リアルだった」、「学生生活を身近に感じた」などの感想が寄せられました。「卒業生の話」では、味の素株式会社健康基盤研究所に勤務されている安達祐介先生をお招きして、本学での思い出や本学の魅力、本学に在籍することのメリットなどをわかりやすくお話いただきました。参加者からは、「将来を考える上で役に立った」「大学在学中と卒業後の様子がわかってよかった」などの感想が寄せられました。「在学生の話」、「卒業生の話」は、ともに高校生にとって今後の進路を考える上で、とても参考になった様子で、たいへん好評でした。

「施設見学」は、臨床薬学教育研究センター、愛学館の分野(研究室)、実習室の見学を行い、約160

名の方にご参加いただきました。参加者からは、 「充実していてきれいだった」、「入学したいという 思いが強まった」などの感想をいただきました。

愛学館2階A23・A24自習室での「相談会」には、56 名の相談者がありました。相談内容は、入学試験や 奨学金、進路、カリキュラム、勉強の仕方、学生生 活などで、高校生、付添者ともにとても熱心な姿が 印象的でした。

今後ともオープンキャンパスをより一層充実していきたいと思いますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



大学紹介



施設見学

教育後援会からのお知らせ

2009年度の教育後援会定例総会が10月9日(金)13時30分よりA31講義室に於いて開催されました。

宮秋会長から「学生の為、大学の為にどうしたらよいか、前向きな活発な意見を出してほしい」との挨拶があり、田村理事長、西野学長からは大学の近況ならびに躬行プランについての説明が行われました。

その後議事に移り、2008年度の決算報告に続き2009年度事業計画ならびに予算(2009年10月1日~2010年9月30日)が下記のとおり承認されました。

また、4年次生に対して「治療薬マニュアルの贈呈」「CBT模擬試験料の補助」を継続的に行うことも承認されました。

議事後、2008年度教育賞(学生の教育に多大な貢献をした教員に贈られる)の表彰式が行われ、受賞者である長澤教授(衛生化学分野)に、宮秋会長から表彰状ならびに副賞が贈られました。

受賞後、長澤教授より「栄養化学と味覚研究」についてミニ講義が行われました。

その後、進路支援部長の山本教授から「学生への進路支援」について説明が行われ、最後に浜崎学生部長より閉会の挨拶があり終了しました。

(単位:円)

項目		予 算 額	使 途	
		1, 800, 000	学生教育研究災害傷害保険料補助(6年間分)	
		200, 000	保険適用外初診料補助(上記保険適用外の初回治療費を補助)	
		700, 000	学生補助金 (学生自治会の意見を聴取、要望に対して柔軟に補助)	
		100, 000	卒業祝賀会協賛 (卒業生ご父母に参加頂くため協賛)	
学生生活支援事	事業	150, 000	弔慰金 (学生及びそのご父母に対して支給)	
		1, 500, 000	学部生英語受講料補助(学部生を対象に、学内で開講する英語課外講座の	
			受講料の一部を、1人当たり15千円を限度に補助)	
			200,000 一般図書の寄贈(専門図書を除く)	
			「憩いの場所」整備事業	
	小 計	5, 650, 000		
公贝为角 重型	ιβ.	300,000	会合費・事務費・郵送料	
人	父母対象事業		KPUニュース発送料	
	小 計	1, 400, 000		
		1, 400, 000	CBT模擬試験料	
教育研究支援事	事業	2, 000, 000	参考書「治療薬マニュアル」贈呈	
		210, 000	教育賞(賞金・記念品代)	
	小計	3, 610, 000		
予備費		140, 000		
支出合計		10, 800, 000		

2009年度後期試験日程

教務課

シラバスにも一部掲載しておりますが、2009年度後期の試験日程は下表のとおりです。

また、再試験受験手続について、例年手続きが遅れる学生が見受けられます。日程等(再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します)よく確認しておいてください。

「<u>再試験受験許可書・領収書」については、再試験を受験する際に必要です</u>。手続後、再試験受験時まで 紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので申し出てく ださい。

≪後期試験等日程表≫

【4年制4年次】

年次	試 験	試験期間	合格発表	手続等
	薬学特別演習 正規試験	1月21日(木) 1月22日(金)	2月 1日(月)に 発表(予定)	_
	薬学特別演習 再試験	2月 8日(月) 2月 9日(火)	卒業査定会[2/25(木)] まで発表しません	2月 1日(月) 2日(火)
4	後期試験	1月 8日(金)~ 1月15日(金)	1月27日(水)に発表	_
	後期再試験I	2月 4日(木)~ 2月 9日(火)	卒業査定会[2/25(木)] まで発表しません	後期試験の合格発表期間 を「再試験受験願」受付日 とします [1/27(水)・1/28(木)]

[※]後期試験は「医療安全性学」のみ受験

【4年制2~3年次】

年次	試 験 試験期間		合格発表	手続等	
	後期試験	1月12日(火)~ 1月20日(水)	2月 4日(木)に発表	_	
2~3	後期再試験 I	2月12日(金)~ 2月19日(金)	進級査定会[3/16(火)] まで発表しません	後期試験の合格発表期間を 「再試験 I 受験願」受付日 とします [2/4(木)・2/5(金)]	

【6年制】

年次	試験	試験期間	合格発表	手続等
	後期試験	1月 8日(金)~ 1月15日(金)	1月27日(水)に発表	_
	後期再試験I	2月 4日(木)~ 2月 9日(火)	2月17日(水)に発表	後期試験の合格発表期間を 「再試験 I 受験願」受付日 とします [1/27(水)・1/28(木)]
4	前•後期再試験Ⅱ	2月23日(火)~ 3月 2日(火)	進級査定会[3/23(火)] まで発表しません	後期再試験 I の合格発表期 間を「再試験 II 受験願」受付 日とします [2/17(水)・2/18(木)]
	OSCE本試験	12月19日(土) 12月20日(日)	別途掲示して告知	_
	OSCE再試験	3月 8日(月)	進級査定会[3/23(火)] まで発表しません	別途掲示して告知
	CBT本試験	12月24日(木) 12月25日(金)	別途掲示して告知	_
	CBT再試験	2月16日(火)	進級査定会[3/23(火)] まで発表しません	別途掲示して告知
	後期試験	1月12日(火)~ 1月20日(水)	2月 4日(木)に発表	_
1~3	後期再試験 I	2月12日(金)~ 2月19日(金)	進級査定会[3/16(火)] まで発表しません	後期試験の合格発表期間を 「再試験 I 受験願」受付日 とします [2/4(木)・2/5(金)]

2010年度大学院入学選考結果

2010年度大学院薬科学専攻博士前期課程入学選考 を10月17日(土)に実施し、10月22日(木)に合格 発表を行いました。

薬科学専攻博士前期課程の志願者は、11名で合格 者は10名でした。

○薬科学専攻博士前期課程の合格者数等 (単位:人)

	一般	推薦	他大学	外国人	計
志願者数	7	1	1	2	11
受験者数	6	1	1	2	10
合格者数	6	1	1	2	10

2010年度一般公募制推薦入学試験結果

2010年度一般公募制推薦入学試験が2009年11月21日(土)に実施され、11月28日(土)に合格発表が行なわれました。

その結果は次のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
一般公募制推薦	83名	298名	103名

戦略的大学連携支援事業・FDプログラム開発

ブリュッセル・ストックホルム視察報告

基礎科学系 数学分野 准教授 葛城 大介

「地域内大学連携によるFD活動の包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」(代表校:佛教大学、事務局:大学コンソーシアム京都)の活動の一環として、2月に米国視察に行かれました深田先生に引き続いて(KPUNEWS2009年7月号18~19頁)、夏季海外視察として、ブリュッセルとストックホルムに行って来ました。私以外の視察メンバーは、京都光華女子大学の学長が1名、龍谷大学、京都産業大学から教員がそれぞれ1名、京都外国語大学から教員1名、職員2名、京都精華大学、京都工芸繊維大学から職員がそれぞれ1名、大学コンソーシアム京都からスタッフが1名の計10名でした。

我々の他にも、オーストラリアの各大学を視察するグループがあり、それぞれの視察グループによる報告会が10月16日(金)にキャンパスプラザ京都で行われました。

我々の視察場所および日程は以下のとおりです。

8月24日(月)ヨーロッパ大学協会(EUA)

8月25日 (火) Vinnova

8月26日 (水) Stockholm University

8月27日 (木) KTH University

8月28日 (金) Konstfack Art University/College



EUAにて 中央はProject Officerの Michael Hörig氏とElizabeth Colucci氏

EUAはブリュッセルにあり、他はすべてストックホルムにあるため、25日の朝6:00にストックホルムに向けて移動し、その日の午後にVinnovaを訪問するという強硬日程でした。各視察機関の概要は以下のとおりです。

- ・EUA: 旧・欧州大学協会とEU学長会議が合併して設置された組織で、現在、ヨーロッパ46ヵ国の大学と学長会議の代表者約800名がメンバーとなっています。ボローニャプロセスにおけるボローニャ・フォローアップ・グルーの1つです。
- ・Vinnova:スウェーデンにおける産業・雇用・通信省の役割を担う機関で、研究開発やイノベーション

にかかる資金配分を行っています。

- ・Stockholm University:スウェーデン最大級の大学で、スウェーデンでは3番目に古い大学です。人文、法律、自然科学、社会科学の4学部からなり、それらの下には合計で86学科がある、研究に重点をおいている大学です。学士および修士課程の学生が約50,000人、博士課程が約1,800人、教職員が約5,000人います。
- ・KTH University: スウェーデン最大の工学系大学で、ヨーロッパでは最高の工学系大学として格付けされています。学士課程の学生が約4,000人、修士課程の学生が約13,000人、博士課程の学生が約1,500人、教職員が約3,100人います。
- ・Konstfack Art University/College:スウェーデン最大規模の芸術大学です。学生数は約900人、教職員数は約200人です。



Stockholm Universityにて 同大学出身者によるノーベル賞受賞記念のサイン 左上は反応速度の分野でお馴染みの Svante Arrheniusのサイン

我々の今回の主な目的は、ヨーロッパ特に、スウェーデンにおけるボローニャプロセスの現状を把握することでした。ボローニャプロセスとは、1999年6月にイタリアのボローニャで採択(29ヵ国が参加、現在は46ヵ国が参加)されたボローニャ宣言に基づくヨーロッパ改革プロセスを言います。2010年までに、ヨーロッパ高等教育エリアの設立を目指しています(現在ではその後10年間で更なる発展を目指しています)。教育と研究の両面で国際的な水準で競争力を持つには、ヨーロッパの高等教育はどう変化するべきかという考えからボローニャ宣言は出され、以下の6つの目標達成を課題としています。

- 1. 比較可能な学位制度の確立
- (Diploma Supplement の導入)
- 2. 学士課程3年・修士課程2年2サイクル学位制度の 確立

- 3. 単位互換制度の確立
 - (European Credit Transfer System)
- 4. 学生や教員の流動性の促進(英語プログラム等)
- 5. 質保証の協力(比較可能な基準や方法の開発)
- 6. 高等教育に必要なヨーロッパ的要素の導入 (大学間連携や留学制度)

さらに、ボローニャ宣言から2年ごとに開催される会議、およびスウェーデンでは自国の教育制度も考え、以下の目標も掲げています。

- 7. Dublin descriptors と呼ばれる学士・修士・博士 の修了証に関する共通の枠組みの採用
- 8. ラーニング・アウトカムズの重視
- 9. 労働生活と高等教育の統合の促進
- 10. 生涯学習の促進



Stockholm Universityにて 左はボローニャプロセス担当教授Johan Falk氏, 中央はシニアアドバイザーÅke Nagrelius氏

加盟団体が認定した教育プログラムの実質的同等性、ひいてはその修了者について他国・他地域の認定機関が認定したプログラム修了者と同様な専門レベルに達していることを相互に認め合うような制度は、ヨーロッパにおけるボローニャシステムばかりではありません。工学教育に関しては、すでに全世界的に浸透しており、その代表的なものに、ワシントン・アコードがあります。加盟国は、米国、カナダ、日本、台湾、韓国、オーストリア、英国などチダ、日本、台湾、韓国、オーストリア、英国など野では、このような動きが全くなく残念であり、工学教育に関わった経験のある者から見ると遅れているという感じが拭えません。

今回、スウェーデンの各大学を訪問して、一番驚かされたのは、大学運営(本学でいうところの理事会)や建物の改築等に学生自身が参加していることでした。大学生の平均年齢が高いばかりでなく授業料が無料ということもあり、年齢的・経済的に自立していることがあげられますが、さらに、税金が高く一人ひとりが納税者という意識が強いために、積極的に政治や運営その他に参加していくという意識が強いことが考えられます。ちなみに、スウェーデ

ンでは、高等学校卒業後に一時的に就職し社会経験 を積んでから大学進学をする者が多いので、新規入 学者の平均年齢は22.5歳です。また、子育てをしな がら、あるいは働きながら、必要な履修単位取得の ためにパートタイムで学ぶ学生が多いのも特徴の一 つです。



KTHにて 新入生レセプション準備の様子

スウェーデンでは、日本人留学生が非常に多いということにも驚かされました。そのため、KTHでは、日本人のスウェーデン語教員がいました。また、Konstfack では、学生ばかりでなく教員や職員の中にも日本人がいましたし、日本の学部長にあたるディーンが日本人の方でした。KTHやStockholm University では、多くの日本の大学と提携を結んでいます。日本との研究交流も盛んで、Vinnova を窓口とした医学、薬学、バイオ等の分野において一定の成果をあげています。

(http://www.jst.go.jp/inter/project/country/
sweden.html)

今回の海外視察で、海外の教職員の方々との交流 および京都の他大学の教職員の方々との交流をとお して、教育システム等について議論を交わすことは 有意義でしたし、これからの教育に生かしていけれ ばと思いました。



Konstfackにて昼食会 右は学長のIvar Björkman氏

スカンジナビア生理学会に参加して ~太陽の沈まない国で~

薬物治療学分野 髙須賀 洋徳 (M2) 、髙橋 健人 (M2)

スウェーデン、ウプサラで2009年8月12日より2日 間にわたり行われたActa Physiologica International Symposium (APIS) および14日より3日間にわ たり行われたスカンジナビア生理学会 (Scandinavian Physiology Society: SPS) に参加 するため竹内教授、林ポストドクター (PD) ととも にスウェーデンへ向かいました。11時間のフライト 後、飛行機はオランダを経由し、さらに2時間かけて スウェーデンの首都ストックホルムのアーランダ空 港に到着しました。スウェーデンは人口約900万人の 王国で、世界的な権威を持つノーベル賞の授与が行 われます。気候は8月にも関わらず、20度程度と涼し かったのですが日差しがあるのとないのとで気温の 差が激しく、その度に上着を着脱していました。ま た、白夜が見られるのではないかと期待していたの ですが、白夜は6月に見られるとのことで、今回は残 念ながら見ることはできませんでした。しかし、午 後9時になっても外は明るく、まだ夕方なのではない のかと錯覚してしまうほどでした。

学会が開かれるウプサラに向かうまでに時間があったので特急列車アーランダエクスプレス(最高時速200キロ)でストックホルムに向かい、ガムラスタン(旧市街地)を観光しました。昔ながらのレンガ造りの建物が立ち並んでいて、背の高い教会がいたるところにあり、遠くから見ても教会だとわかりました。また、ノーベル文学賞決定機関であるだとわかりました。また、ノーベル文学賞決定機関であるエーデン・アカデミーが中心部にあり、昔はは川端康成や大江健三郎が文学賞を受賞しています。このような学識の豊かな国で学会に参加できることを嬉しく思いました。スウェーデンの公用語はスウェーデン語ですが、英語教育がすばらしいためか街のどんな人に話しかけてもしっかりとした英語で対応してくれました。

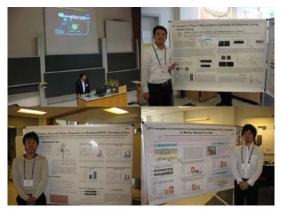
学会が行われたウプサラはスウェーデンで4番目に大きい都市で、スカンジナビアで最大級を誇るスウェーデン最古の教会があります。ウプサラに着くと、その日の夜にウェルカムパーティーが催され学会の主催者であり竹内教授とも大変親交の深いUppsala UniversityのFlemstrom教授から挨拶がありました。Flemstrom教授は今年で退職されるとのことで、Flemstrom教授と親しい著名な方々が集まりました。学会会場のBio Medical Center (BMC) は広大な敷地面積を誇る大学で、その広さに驚きました。まず、12日から行われたAPISはFlemstrom教授の功績を称えるために開かれたものであり、続いて14日からSPSが行われました。APISは参加者が少数にもかかわらず、普段、私たちが研究しているアルカリ分泌の

分野の著名な方々がほとんどを占めていました。その方々の発表を目の前で聞くことができる機会など滅多にないので、スライドを見ながらメモを取ることに必死でした。そして、竹内教授をはじめ、世界の第一線で活躍されている方々の活発な討論を間近で見ることでまだ論文化されていない最新の知見について勉強する事ができました。

私たちは今回、両学会のポスターセッションに参加しました。ポスター発表の経験はありましたが、それは日本語での話であって英語による発表は初めてでした。まず、相手の話している内容を理解立てでした。まず、その答えを分かりやすく理論立て伝えることができるのか?日本から持ってきた論でした。当日、実際自分のポスターの前に立立と繁張でいた。当日、実際自分のポスターの前に立ちに、片言でも通じているという喜びがそんな不安と緊張を少しほぐしてくれました。言っている事を100%理解するにはやはり語学力が足りないということを身にしみて感じ、私たちにとって非常によい刺激となりました。

今回初めて、海外で行われる学会を経験し、日本 国内だけでなく海外の著名な方々との意見を交換す ることは大変重要なことが分かりました。また、そ のためには語学力が必須という事を痛感した、本当 に内容の濃い一週間でした。今回の経験を自信に し、今後益々成長していきたいです。

最後になりましたが、今回学会発表の機会を与えて下さいました竹内教授、また学会の参加のご配慮頂いた理事長、学長をはじめ、大学関係者の方々に深く感謝いたします



竹内教授(左上)、林PD(右上)、 高須賀(左下)、高橋(右下)

国際消化管学会 in Croatia 〜世界遺産に囲まれて〜 薬物治療学分野 熊野 愛子 (M2)

クロアチアのスプリットで2009年9月10日より7日間にわたり行われた国際消化管学会(International Conference on Gastrointestinal Research - International Conference on Ulcer Research MEET-ING)に、竹内教授、佐藤客員教授、天ヶ瀬助教、私を含め院生4名の計7人が薬物治療学分野から出席致しました。学会開催地へは、ドイツのフランクフルト空港、さらにはクロアチアの首都にあるザグレブ空港を経由し、スプリット空港までという行程でした

クロアチアは1990年代にユーゴスラヴィアから独立した人口約450万人の国であり、アドリア海沿岸に位置し、古い町並みが残っています。クロアチアには旧市街や国立公園といった世界遺産が、学会が開かれたスプリットを含め、国内6ヶ所にあります。9月のクロアチアの気候はあまり日本と変わらず、過ごしやすい気候だと感じましたが、一日の寒暖の差が激しく、朝晩は肌寒く感じました。クロアチアの夏は晴天率が高く、アドリア海が美しく見えるそうですが、我々の滞在中は生憎の悪天候で残念でした。しかし、悪天候にも関わらず海がとても美しく見え、白壁に赤茶色の屋根の家々がよく映えていました。

滞在先への到着までに、自宅を出てから丸24時間かかりました。到着したのは真夜中で、翌朝から学会に参加しました。学会はスプリット郊外にあるLE MERIDIENと呼ばれるホテルで、クロアチアのザグレブ大学教授であるSikiric教授が会長として開催され、世界各国からの著名な方々が集まり最新の研究についての発表や意見交換が行われました。この学会は今回で13回目であり、3年ごとに行われています。前回は2003年に日本(大阪)で行われました。その時から、竹内教授が本学会の理事長に就任されています。

各シンポジウムでは、様々な角度から消化管につ いての最新の知見やこれまでの研究の歴史が紹介さ れました。私たち院生は、海外で開かれる国際学会 に参加するのは初めてであり、日常会話での英語を 聞き取るのもやっとの状態だったため、きちんと内 容が理解できるかが不安でした。当初は講演の内容 を聞き取ることはとても困難でしたが、電子辞書を 片手に、スライドを見ることにより、多少内容を理 解しやすくなったと感じました。また、毎日英語を 聞いているうちに耳が慣れてきて、内容が聞き取り やすくなりました。さらに、自分の研究内容に近い 分野のシンポジウムでは、普段目にする論文の著者 による講演を聴くことができ、その分野における最 新の知見や考え方をよりよく知ることができまし た。この講演から得た知識を自分の研究に活かして いきたいと思います。

今回の学会では、我々院生も一般演題にて口述発 表に挑戦しました。以前に日本や韓国で行われた研 究会にて、英語で研究発表を行ったことがある人も いましたが、大きな国際学会で口述発表するのは皆 初めてだったため、大変緊張しました。自分が実験 してきた内容を上手く聴衆に伝えることができるか どうか不安だったため、事前に英会話を習ったり、 教授に内容だけでなく、発音や話し方をチェックし ていただいたりして、何度も練習を重ねました。ま た質疑応答で何が聞かれるかを自分で考えるだけで なく、研究室のスタッフや先輩方、同輩、後輩にも 相談して対策を練りました。本番では緊張してしま い上手く言えなかったり、また質問が正確に聞き取 れず、聞き取れても言いたいことを伝えられなかっ たり、もどかしい思いをしました。しかしこの発表 を通して、英語で発表することの難しさを知るとと もに、多くの課題を発見することができ、大変貴重 な体験ができました。これらの経験を、これからの 研究や発表に活かせるよう努力したいと思います。

学会の合間に少し観光する時間があったので、まず、スプリットの旧市街地を散策しました。スプリットで最も有名な観光名所は、旧市街地の中心部にあるディオクレティアヌス宮殿であり、世界遺産に登録されており多くの観光客が訪れていました。この宮殿は、ローマ皇帝ディオクレティアヌスによって建てられたものであり、内部にあるロマネスク様式の建物やスプリットのランドマークである大聖堂、地下にある遺跡は見応えがありました。

さらに、スプリットからバスで1時間のところにあるトロギールにも足を運びました。トロギールは周りを城壁で囲まれた小さな島であり、内部には様々な歴史的建造物がありました。特に聖ロヴロ大聖堂は世界遺産に登録された教会であり、入り口や天井の彫刻がとても美しく感じられました。また、鐘楼から見える景色は素晴らしく、トロギール全体を見渡すことができました。

今回の国際学会で口述発表したという経験は私たちの自信となりました。この自信を糧に、これからの研究活動にいそしんで行きたいと思います。この



アドリア海をバックに

(学会場前にて、左から2人目が筆者)

受賞

教育賞受賞のご挨拶



生命薬科学系 衛生化学分野 教授 長澤 一樹

この度、2008年度教育後援会教育賞を拝受いたしました。教育後援会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。私が学生時代に教わった先生方が受賞されてきた素晴らしい賞を受賞することができ、大変光栄に思っております。

元来、上がり症で、話すのは決して上手くない私ですが、このような職についた以上、講義を避けることはできません。嫌々やっても、教員、学生とも辛い思いをするだけですので、"何故私(長澤)が劣悪生であったのか?"を常に頭において、ある意味積極性が十分でない学生諸君に少しでも興味を持ってもらえるように講義を行っているつもりです。とは言うものの、自分で満足できる講義ができたことなど皆無であり、試験の答案を見て、私の意図するところが伝わっていないことが分かるたびに、自己嫌悪に陥っているのが正直なところです。

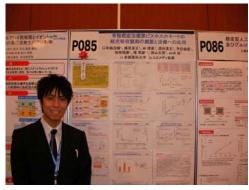
既にご存知の方もあると思いますが、山形大学高 等教育研究企画センターのホームページに『あっと おどろく大学授業NG集』 (http://www.yamagatau. ac. jp/gakumu/kyouiku/) というビデオがありま す。最近私も見つけたのですが、そのビデオのタイ トルを見るだけで、少なくとも私にとっては"ド キッ"とするものがならんでおります。良かったら 覗いてみてください。今までは年齢的にも立場的に も学生諸君と近かったため受け入れられてきたとこ ろも多分にあったかと思います。しかし、これから はそうはいかなくなってくるので、もう一度気を引 き締めなおせというのが、今回の受賞の大きな理由 であると思っております。今後、少なくとも上述の サイトにあるような講義にならないように自己研鑽 に努めるだけでなく、物事を多角的に捉えられる リーダー的人材の育成を目指して教育研究に励んで まいります。引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろし くお願いいたします。

第25回日本DDS学会の ベストポスター賞を受賞

2009年7月3~4日に東京ドームホテルで開催された第25回日本DDS学会において、薬剤学分野、博士前期課程2年の草森浩輔さんが、ポスタープレゼンテーションにおける優秀発表者として、ベストポスター賞を受賞しました。受賞の対象となった発表演題は、「骨粗鬆症治療薬ビスホスホネートの経皮吸収製剤の創製とその治療への応用」です。3分間のプレゼンテーションが行われ、採点方式の審査により受賞が決定されました。



表彰状 (ベストポスター賞)

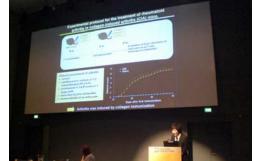


受賞した草森浩輔さんとポスター

国際DDS学会の大学院生 ポスタープレゼンテーションで第2位を獲得

2009年7月18~22日にデンマーク・コペンハーゲンで開催された36th Annual Meeting and Exposition of the Controlled Release Society (国際DDS学会)の大学院生ポスタープレゼンテーションにおいて、薬剤学分野、博士前期課程2年の物集拓典さんが第2位(賞金\$500)を獲得しました。受賞の対象となった発表演題は、「Prevention of Bone Destruction in Rheumatoid Arthritis by Intrapulmonary Administration of Zoledronate, a Nitrogen-Containing Bisphosphonate (ゾレドロネート経肺投与による関節リウマチの骨破壊抑制)」です。大学院生665名中、要旨審査の上位6名によるプレゼンテーション (発表6分+質疑2分)が

行われ、採点方式の審査により順位が決定されました。



物集拓典さんによるプレゼンテーション

次世代を担う創薬・医療薬理 シンポジウム2009 優秀発表賞受賞

演題名:ロテノン投与マウスにおけるケミカルシャペロン(4-PBA)のドパミン神経保護効果

演者:○阿部眞里、位田雅俊、北村佳久、谷口隆之



2009年8月24日に次世代を 担う創薬・医療薬理シンポジ ウム2009が慶応義塾大学芝共 立キャンパスで開催され、本 学生命薬科学系病態生理学分 野(指導教員:谷口教授、北 村准教授)の阿部眞里さん (博士前期課程2年)が発表 した研究内容が、東京大学大 学院博士前期・後期課程の大 学院生や大阪大学大学院博士

後期課程の大学院生と並んで優秀発表賞を受賞しました。本研究は、農薬の一つであるロテノンをマウスに長期間経口投与することで新規パーキンソン病モデルを作製したこと、さらにこのモデルを用いてケミカルシャペロン物質(4-PBA)のドパミン神経保護効果を見出した内容が評価されました。

第8回オーストラリアペプチドカンファレンス Travel Award 受賞

2009年10月11日~16日、オーストラリア・クイーンズランドで開催された上記の国際学会において、薬品化学分野の2名がTravel Awardを受賞されました。

受賞者:吉矢拓(JSPS特別研究員、博士後期課程2年)長谷川由佳(博士前期課程2年)





吉矢さん

長谷川さん

第46回ペプチド討論会 若手口頭発表優秀賞 受賞

2009年11月4日~6日、北九州国際会議場で開催された上記の学会において、薬品化学分野の2名が若手口頭発表優秀賞(Good Stone Award)を受賞されました。

受賞者:Vladimir Torbeev博士

(JSPS 外国人特別研究員(短期))

演題 "Protein dynamics and function are correlated in the chemical mechanism of HIV-1 protease catalysis"

受賞者:柏本啓介(博士前期課程2年)

演題 "高い抗マラリア活性を示すためのプラスメプシン阻害剤への塩基性アミノ基の結合"



受賞後の Torbeev博士と 柏本さん

日本ペプチド学会 Travel Award 受賞

薬品化学分野の3名が、第3回アジア太平洋国際ペプチドシンポジウム(韓国・済州島にて2009年11月8日~11日開催)での研究発表に対し、日本ペプチド学会より若手研究者参加支援(JPS Travel Award)を授与されました。

受賞者: [一般口述発表] 吉矢 拓 (JSPS特別研究員、博士後期課程2年)、[ポスター発表] 谷口敦彦博士 (JSPS特別研究員)、水口貴章 (博士前期課程2年)

第3回アジア太平洋国際ペプチドシンポジウム ポスター賞 受賞

2009年11月8日~11日、韓国・済州島にて開催された上記国際学会にて、薬品化学分野2名がポスター賞 (2009 Poster Prize Award for the Distinguished Lecture in Young Scientist Colloquium) を受賞されました。

受賞者:谷口敦彦博士(JSPS特別研究員)

演題 "Click peptide: water-soluble precursor producing amyloid β peptide by stimulus"

受賞者:水口貴章(博士前期課程2年)

演題 "An inhibitory cyclic peptide against EGF

receptor dimerization"



谷口博士

水口さん

薬品化学分野の研究が、海外向け政府広報書籍で紹介される

薬品化学分野のアルツハイマー病治療薬に関する研究が、海外向け政府広報Web版電子書籍「Highlighting JAPAN through articles」2009年10月号に紹介されました。この電子書籍は、日本に対する正しい理解と関心の増大に資するため、日本の政策、経済・産業、科学技術、企業経営、自然など、現代日本の素顔を深く掘り下げた記事を中心として構成され、毎月政府広報オンライン(英語版)を通じて世界に発信しているものです。記事はCombating Alzheimer's(アルツハイマー病と闘う)という題で、理化学研究所の高島明彦チームリーダーらの研究と共に、木曽教授率いる当研究室の β セクレターゼ阻害剤について紹介しています。

同書籍は、Web版が政府広報ホームページに掲載されている他、印刷物の形態で関西空港や成田空港で配布されています。

政府広報HP http://www.gov-online.go.jp/eng/publicity/book/hlj/





Highlighting JAPAN 2009年10月号(右頁写真が木曽教授)

木曽教授解説による創薬研究の記事が、進学情報雑誌に掲載される

総合教育会社「河合塾」発行の進学情報雑誌 Guideline 2009年9月号で、シリーズ「注目の学部・学科」 として薬学部が紹介され、その特集記事の中で、薬品化学分野の木曽良明教授が大学受験生に向けて創薬科 学について解説しています。







Guideline誌 2009年9月号

Library News

図書館

図書館開館日程

2010年1月

2010年2月

H	月	火	水	木	金	±	日	月	火	水	木	金	±
					1	2		1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24/31	25	26	27	28	29	30	28						

太字 が休館日。

開館時間:平日9:00~20:00、土曜日10:00~17:00 臨時に休館する事がありますので、図書館掲示板で 確認して下さい。

《3月の開館について》

薬剤師国家試験前の5日までは通常のサービスを行い、以後は新図書館への移転準備と本作業、そして新館オープンへ向けて整備の仕事をする予定です。 詳細が決まり次第、ホームページや電子メール、掲示などでお知らせいたします。3月にはなにかとご不便をおかけしますが、よろしくご理解下さいますようお願い申し上げます。

教育後援会から図書をご寄付いただきました

教育後援会から169点の図書を寄贈していただきました。これは学術的な専門図書のほかに一般図書、教養図書と呼ばれる本も充実させ、学生のみなさんに読んでもらおうという考えから、毎年、後援会がご寄贈下さっているものです。7月に学生自治会執行部が行った「図書アンケート」の結果をもとに選書されています。また、図書館へリクエストのあった図書も含まれています。

貸し出しのできるようになった図書は新着図書 コーナーに並べていますので、どうぞご利用くださ い。



お知らせ

クラブだより

ESS部 -

ESS部は火曜と木曜のお昼休みに活動しています。 毎回、部員がディスカッションや英語のゲームなど を企画し、楽しく英語を学んでいます。

また、競技大会やパーティーなどを通じて他大学と の交流も盛んな部活です。

第95回薬剤師国家試験

第95回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験期日 2010 (平成22) 年3月6日 (十)

3月7日 (日)

試験地 北海道 宮城県 東京都 石川県

愛知県 大阪府 広島県 徳島県

福岡県

試験科目 (1)基礎薬学 (2)医療薬学

(3)衛生薬学

(4)薬事関係法規及び薬事関係制度

合格発表 2010 (平成22) 年3月30日 (火)

午後2時

京都薬科大学公開講座開催

2009年11月7日(土)愛学ホールにおいて第15回公開講座を開催いたしました。はじめに西野学長の挨拶があり、その後、「新型インフルエンザとどう向き合うのか」のテーマで、西野学長による講演が行われました。新型インフルエンザと普通の風邪との違いや、感染経路、致死率、ワクチン・治療薬などについて図や動画を交えたわかりやすい説明が行われ、約120名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

その後、場所を体育館に移し、健康科学分野と武田病院のスタッフによる「健康度チェック」やOBによる「くすりの相談」、本学の中田教授による「健康相談」のコーナーが設けられました。健康度チェックでは、それぞれのコーナーで順番待ちのところも出ていましたが、参加者は各コーナーを巡回しスタッフの熱心な説明に聞き入るなど大変好評でした。また昨年度から登場した健康機器(乗馬フィットネス機器など)が、今年度も大きな関心を呼んでいました。

毎年度リピータが多く見られ、健康に対する関心の広がりが伺えました。本学での開催も12回目となり、「毎年秋には、薬大で公開講座があるので楽しみにしています」という声も耳にし、アンケートの中には「来年も楽しみにしています」や「年1回とい

わず2回、3回と開催して欲しい」などが多く、地域に開かれた大学として地域に定着してきたことが感じられました。



西野学長による講演



健康測定



健康増進器具の体験コーナー



健康相談、くすり、漢方薬の相談コーナー

2009年度1年次生『基礎演習』合同発表会

1年次生で開講している基礎演習 (PBLチュートリアル) は、「問題解決型能力の育成と豊かな人間性の涵養」を目標として、少人数で学生間の討論を中心に授業を行っています。基礎演習の到達目標の一つである「解決策を人前で発表し議論することができる」を充実させるため、従来セミナー毎に行っていた発表を、今年度から2セミナー合同で開催しました。

今回「リラクゼーションとくすり」(長澤教授) 「アトピーとくすり」(奈邉准教授)の合同発表会 について紹介します。各自のテーマについて実験・調査を行い、パワーポイントにまとめて7分間でプレゼンテーションを行いました。ユニークなテーマでリラクゼーションを実験した内容では聞き手の笑いを誘い、また、大勢の人が悩んでいる花粉症についての発表では真剣な眼差しでうなずく姿が見られました。聞き手は、発表の後必ず質問もしくは感想を述べるとともに、評価カードにプレゼンテーションの評価を付けます。発表会には受講生以外の教員・学生の積極的な参加がありました。

総勢22名の発表の後、担当教員から「なかなかこのようなプレゼンテーションを経験する機会が無いので貴重な体験ができた。今後の総合薬学研究・演習でぜひ活かしてほしい」との講評がありました。

発表会解散後、受講生の開口一番は「疲れた ~!!」でした。

基礎演習はまだまだ少人数の前での発表ですが、 今後学年が進行し分野内での発表や学会発表、また、社会に出て働く中で行うプレゼンテーションへ 繋がるような『基礎演習の合同発表会』になるよう 改善・工夫していきたいと思います。



2009年度動物慰需祭

10月27日(火)午後2時から動物慰霊祭を、学内の慰霊碑前において執り行いました。

当日は天候にも恵まれ、当麻寺の増田宗雄住職の 読経の中、田村理事長、西野学長、安井動物研究センター長をはじめ教職員、また例年より多くの学生 が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多 くの動物達に感謝と慰霊の念をこめ、冥福を祈りま した。

人 事

昇任

2010.1.1付

薬学教育系教育研究総合センター情報処理教育研究センター 教授深田 守

薬学教育系教育研究総合センター情報処理教育研究センター 准教授 藤原 洋一

薬学教育系教育研究総合センター情報処理教育研究センター 講師石川誠司

京薬会だより

<公開講座>

学長 西野教授の「新型インフルエンザとどう向き合うのか」の講演には、約120名の参加者があり、特に今回は、インフルエンザが流行する中、実にタイムリーな講演だったので中高年の参加者が大変目立ち、新型インフルエンザ対策への関心度の高さがうかがえました。また、本公開講座の人気の1つである健康度チェック「骨密度・体内脂肪測定・体力診断」等にも多数の方々がつめかけられ、大変好評を博しました。

<京薬祭>

晩秋の山科を飾る京薬祭(11月1日~3日)が今年も盛大に開催され、京薬会から30万円の協賛金を学生自治会に提供しました。また、クラブ活動支援の一環として、京薬祭オープニングセレモニーに引き続いて、「優秀クラブ表彰」及び「特別クラブ表彰」を行いました。

自治会長、学生課長、京薬会役員による厳正な選

考の結果、他の模範となる活動及び活躍をした3クラブ(硬式庭球部、剣道部、マンドリン部)に表彰状と副賞として10万円を、また第64回国民体育大会セーリング競技に出場したヨット部瀬尾和彦さんと第85回日本学生選手権水泳競技大会に出場した半澤恵子さんに表彰状と副賞として3万円を会長から贈呈しました。

<駅伝大会>

恒例の各クラブや研究室、個人対抗の駅伝大会が12月12日(土)開催され、京薬会から20万円の協賛金を提供しました。また昨年好評を博した駅伝大会における自治会主催の「ぜんざい会」(当日午後2時より愛学館食堂において450人分のぜんざいと飲み物を準備)に対してその費用全額(約15万円)を支援しました。

<クラブ活動支援金の配布>

会長から学生自治会へ支援金129万円を贈呈しました。なお、各クラブへは12月初旬のキャップ会議において配布しました。

京都薬科大学奨学寄附金募集について

本学関係者の皆様

本学関係者の皆様には、平素から大学運営に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

2008年12月から募集を開始し、京薬会会員の皆様を中心に、教育後援会会員、企業、法人役員、評議員、職員等の方々からお寄せいただきました奨学寄附金は2009年10月31日現在、255件1,364万円に上っており、これを奨学基金に組入れ2010年4月から「授業料減免型奨学金」および「給付型奨学金」の新しい奨学金制度を導入する運びとなりました。皆様からの多大なるご協力に厚く御礼申し上げます。

新たに追加した奨学金制度の詳細については最終ページに掲載しております。厳しい経済状況が続く中、 今後も奨学金の需要が高まることが予想され、本学では、学生の修学支援を更に充実して参りたいと考えて おります。

つきましては、引き続き、皆様からのご寄附による資金的なご支援をお願い申し上げます。

ご寄附いただきました資金は、奨学寄附金として受け入れ、奨学基金に積み立て、有効に活用させていただきます。また、ご寄附をいただきました方々は、年度毎の寄附者名簿を作成し永久保存し、寄附者名を学内誌「KPUwews」にも掲載させていただきます。

学生たちの修学支援のため、今後とも奨学寄附金へのご協力を賜りたくお願い申し上げます。

2010年1月

学校法人 京都薬科大学 京都薬科大学 理事長 田村 正昭 学長 西野 武志

【京都薬科大学寄附金募集要項】

- 1 目的 奨学金制度の充実
- 2 金額 一口 1万円 (一口以上でお願いいたします)
- 3 寄附金の使途 奨学基金の積み増し

4 申し込み及び振り込み方法

下記電話番号にご連絡いただきましたら、ご案内および振込用紙を郵送させていただきます。

5 担当・お問い合わせ場所

京都薬科大学 庶務課

〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5

Tu: (075) 595-4600 (代表) 、 (075) 595-4608 (庶務課直通)

6 減税措置

本学は、ご寄附を賜った方に対して税法上の特典を受けられる「特定公益増進法人」であることの証明を受けております。本学に対して、個人または法人が寄附を行った場合は、その個人・法人ともに税法 上の優遇措置が与えられます。

1) 個人の場合(寄附金控除)

寄附金が5千円を超える場合は、その超えた金額が当該年度の課税所得から控除されます。

【所得税寄附金控除の手続について】

大学発行の領収書と「特定公益増進法人証明書(写し)」を添えて、寄附した翌年の確定申告期間に所轄 税務署に確定申告書を提出し、所得税の還付請求をしていただくことになります。

2) 法人の場合(損金参入)

寄附金の額が、当該事業年度の損金に算入されます。一般寄附金の損金算入限度枠とは別枠で、同額までの金額を損金に算入できます。

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させて頂きます。
- * 敬称略、ご芳名のみ五十音順に掲載しております。

2008年12月に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等〉 〈教育後援会会員〉 〈企業・団体〉 〈法人役員・評議員・職員〉

 五·五会
 (昭32卒)
 石黒 博直(評議員)
 西野 武志(学 長)

 洛楽会
 (昭29卒)
 武田 禮二(理 事)
 村澤 悟(局 長)

田村 正昭(理事長)

2009年1月~3月10日に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等〉

荒石 悦子(昭47卒) 末永 克己(昭19卒) 藤本 國勝(昭39卒) 井岡 万純(昭49卒) 高越 清昭(昭44卒) 藤本 恒子(昭41卒) 石黒 道彦(昭19卒) 竹田奈保美(昭56卒) 牧 敬文(昭28卒) 今村 浩(昭38卒) 谷口 睦子(昭42卒) 松村 郁治(昭36卒) 今村 薫子(昭38卒) 丹所 稔(昭51卒) 松本 直之(平20卒) 上田 啓三(昭32卒) 突合 皐月(昭41卒) 松本 望(平10卒) 扇谷 年昭(昭50卒) 计 勝蔵(昭34卒) 向林素鶴子(昭40卒) 大杉 三郎(昭16卒) 戸井 豊子(昭47卒) 本岡美智子(昭37卒) 川崎 昌義(昭42卒) 富永 勲秀(昭43卒) 京都薬専・薬大 久保 巌(昭14卒) 中川 知秀(昭31卒) 植研OB・OG会 久保田光二(昭23卒) 中嶋 澄江(昭50卒) 昭和54年卒業生 有志一同

栗尾和佐子(昭58卒) 長屋ちとせ(昭56卒) 有志一 厚東 正子(昭41卒) 西野 哲夫(昭23卒) 武田薬品研究所

小財 勲(昭24卒) 野原 基司(昭53卒) 有志一同

柴田 公見(昭62卒) 福井美代子(昭31卒) 薬品製造学分野

〈法人役員・評議員・職員〉

 蘆田
 康子(理
 事)
 田村
 正昭(理事長)

 上西
 潤一(教
 授)
 野出
 學(副学長)

 北出
 達也(教
 授)
 浜崎
 博(教
 授)

 桑形
 広司(准教授)
 村澤
 悟(局
 長)

 河野
 茂勝(教
 授)
 森田
 和子(評議員)

 後藤
 直正(教
 授)
 渡辺
 徹志(准教授)

〈元教授〉

太田 俊作

〈教育後援会会員〉 〈企業・団体〉

岡田 代吉 匿名希望 2社 屋木 利之

2009年3月11日~6月10日に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等〉

〈法人役員・評議員・職員〉

赤川 征一(平01卒) 小西 久子(昭32卒) 藤岡 三夫(昭30卒) 浅野紗智子(昭41卒) 小林 正明(昭35卒) 藤沢平八郎(昭30卒) 安宅 弘充(平13卒) 小林 元樹(昭47卒) 藤本 悦子(昭59卒) 昌純(昭58卒) 佐久間賢治(平09卒) 布施知加子(昭36卒) 乾 有田 浩子(昭59卒) 佐々木 務(昭63卒) 堀内 石岡 厚生(昭28卒) 永吉(昭20卒) 佐野 敬子(昭57卒) 前田 由美(昭43卒) 石垣 元(昭28卒) 増田 本彦(昭28卒) 石田 善浩(平18卒)澤口 市川 和子(昭36卒)澤口 萌子(昭28卒) 増田みち子(昭31卒) 市川 克己(昭59卒) 嶋田 義彦(昭37卒) 松野 愛子(昭36卒) 隆二(昭23卒) 松本 稲垣 美幸(昭45卒) 杉山 蒼平(昭22卒) 井上 佳昭(昭49卒) 平 雅文(昭59卒)松本 勉(昭46卒) 猪熊眞由実(昭63卒) 高井 麻里(平18卒) 松本 恒行(昭24卒) 岩井 隆也(平01卒) 高橋 健人(平20卒) 三森 寿一(昭35卒) 大賀 弘一(昭37卒) 高宮 靖(昭20卒) 六車 昭美(昭39卒) 大滝 勝憲(昭56卒) 高柳 佳澄(昭59卒) 村井 一枝(昭32卒) 大前 壽子(昭54卒) 瀧 美知代(昭62卒) 村尾 重之(昭24卒) 大脇 弘之(昭53卒) 竹内 宏一(昭40卒) 村山 雅子(昭46卒) 恒(昭28卒) 辻本千代美(昭63卒) 森 一二美(昭52卒) 尚 岡田みどり(昭49卒) 寺坂哲太郎(昭41卒) 安田 和夫(昭32卒) 奥林 活人(平14卒) 戸井 一郎(昭46卒) 安松 幹夫(昭33卒) 剛(平14卒) 矢野 香川 春樹(昭57卒) 冨山 好隆(昭39卒) 俊男(昭28卒) 中川 笠島 幸雄(昭33卒) 山口 博行(昭42卒) 鎌倉 嘉男(昭36卒) 永友 敏郎(昭27卒) 山下 繁克(昭41卒) 弓枝(昭62卒) 永浜 淳子(昭31卒) 山下三千子(昭41卒) 川島 河原 曜子(昭52卒) 中村 悦子(昭37卒) 山本加寿子(昭46卒) 岸田 幸子(平08卒) 中村 泰三(昭41卒) 湯浅 総司(昭32卒) 北 泰行(昭42卒) 七海 朗(昭41卒) 横田 好子(昭39卒) 北山 進三(昭48卒) 七海 禮子(昭41卒) 吉澤 房子(昭49卒) 木村 恵一(昭34卒) 沼波 康恵(平16卒) 吉田 和子(昭44卒) 金生 貞治(昭29卒) 能口 敬子(昭50卒) 吉村 聡子(昭56卒) 國貞 真司(昭41卒) 林 卓志(平20卒)渡邊 萬里(昭48卒)

秋葉 聡(教 授) 土屋 勝(理事) 土岐 隆信(評議員) 石川 誠司(助 教) 伊槻 雅子(評議員) 長澤 一樹(准教授) 徹男(教 授) 賢一(理 事) 中田 入江 一充(監 西口 工司(教 授) 事) 能勢 俊彦(課 長) 大槻 雅子(准教授) 抱 喜久雄(准教授) 野出 學(副学長) 洋一(講 北村 佳久(准教授) 藤原 師) 星野 展宏(主 查) 桑原 敏則(課 長) 芳顕(課 長) 増田 重治(課 長) 小里 周(助 皆川 教) 児玉 孝(評議員) 昭(理 事) 勝実(講 宮秋 後藤 師) 宮本 茂敏(理 事) 佐原 和美(主 査) 宮本 孝(課 長) 髙野 江里(課 長) 授) 村山猪一郎(監 事) 髙山 明(教 安井 裕之(教 授) 竹内 孝冶(教 授) 山下 豊彦(課 武上 茂彦(講 師) 長) 吉村 律子(主 武田 禮二(理 事) 事) 田村 正昭(理事長) 京都薬科大学 教授親睦会 月岡 淳子(助 教)

〈元教授〉

井上 武久 藤本 貞毅 金澤 治男 村西 昌三 福井 昭三

〈企業・団体〉

株式会社 茨木春草園 キノンビクス株式会社 株式会社 京都ラボ 匿名希望 2社

2009年6月11日~9月30日に寄附をお寄せいただいた方々

1名

〈卒業生・同期会等〉

杉本磨理子(昭46卒)

昌明(昭28卒) 平野

倉本

小泉

赤坂由利子(昭42卒) 田中 弘人(昭54卒) 富永 享子(昭43卒) 安達 茂子(昭32卒) 井上 隆夫(昭22卒) 堀内 順平(昭57卒) 大槻 房三(昭24卒) 三河絵梨子(昭60卒) 木村 寛之(平13卒) 宮川 喬行(昭39卒) 政彦(昭42卒) 久米 和子(昭43卒) 山下 佐々木康夫(昭50卒) 渡辺 温(昭43卒) 佐藤千鶴子(昭32卒) 京都薬科大学京薬会

健(昭36卒) 広瀬 泰久(昭20卒)

〈企業・団体〉

隆(昭55卒) 匿名希望

京都電子計算株式会社 株式会社京都廣川書店 大和電設工業株式会社 株式会社長角堂 株式会社不二家商事

〈教育後援会会員〉

松岡 輝秋

〈法人役員・評議員・職員〉

收(教 授) 橋詰 有本 勉(教 授) 光(評議員) 久米 畑山 巧(教 授) 隅田 芳男(講師) 查) 阪 幸子(主 谷口 隆之(教 授) 樋口 文子(係 長) 田村 正昭(理事長) 宮川 克之(評議員) 長澤 吉則(准教授) 京都薬科大学学生課 奈邉 健(准教授)

〈元教授〉

北村 桂介 穂積啓一郎

2009年10月1日~11月30日に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等〉

石原ゆき子(昭49卒) 柘植 邦博(昭53卒) 稲垣 美幸(昭45卒) 富永 護(昭43卒) 扇谷 年昭(昭50卒) 森 一二美(昭52卒) 裕子(昭52卒) 八崎 輝義(昭30卒) 勝 川崎健太郎(昭46卒) 八崎 裕明(平04卒) 山本 容平(昭26卒) 貴宝院善博(昭41卒) 佐伯 素子(昭45卒) 匿名希望 1名 清水 薫(昭50卒)

〈企業・団体〉

〈法人役員・評議員・職員〉

丸善株式会社 京都支店 天ヶ瀬紀久子(助教) 前田 朋宏(主 査) 常孝(評議員) 石原 慶一(助 教) 松井 加藤 伸一(准教授) 村澤 悟(局 長) 正昭(理事長) 村田 保(講 師) 田村 実穂(主事) 矢野 義孝(教 授) 津岡

〈元教授〉

藤井 達三 (2009年11月30日現在)



「授業料減免型奨学金」と、

「給付型奨学金 | の2つの奨学金制度を導入いたします。

授業料減免型奨学金

経済的な事情から修学が困難に陥った学生に対する緊急支援として、 半期授業料の減免を行います。 採用人数:約5名(予定)

給付型奨学金

優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図るため、 成績優秀者に対して奨学金を給付いたします。

新入生

入試成績優秀者に対し、半期授業料の2分の1相当分を給付いたします。 採用人数:約10名(予定)

在学生 (2年次生~5年次生対象) 特に成績優秀な在学生に対し、1人20万円の奨学金を給付いたします。 選考方法:成績・面接

採用人数: 各学年約10名(予定)

採用人数:約5名(予定)

大学院進学者

入試成績優秀者に対し、入学年度の半期授業料相当分を給付いたします。 選考方法:成績·面接·試問

 \rightarrow 075-595-4614 詳しくは学生課までお問い合わせください。

◆ 本学独自の奨学金他は、こちらをご覧ください。→ http://www.kyoto-phu.ac.jp/campus_life/scholarship/



◎ 京都藥科大学

〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL.075-595-4600(代) FAX.075-595-4750(代) http://www.kyoto-phu.ac.jp